

授業の演劇発表と小旅行 Taxco(タスコ)

授業の演劇発表

早いものでメキシコにも秋がやってきたようです。しかし、日本とは違って紅葉を楽しむ様子はなく、赤や黄色ではない茶色の枯れ葉がただ風に吹かれています。

私の通っている C E P E (外国人のためのスペイン語教育スクール) という学校は、6週間で1つのレベルを習得します。今月10月はその集大成となる試験や発表会があります。私は、**Español a Escena, Teatro y Pronunciación** (スペイン語による映画、演劇と発音) という授業をとっていて、10月9日に、その集大成として、8人の仲間とともに、3つのショートムービーと演劇を発表しました。3つのショートムービーのタイトルは、**Información** (情報)・**Biblioteca** (図書館)・**Jardín**(中庭)で、それぞれ2~3人のグループでシナリオを考え、監督として試行錯誤したり、俳優として演じたりしました。9日に、実際に舞台上に立って演じた演劇のタイトルは、“**Pez Mágico** (魔法の魚)”です。内容は、魔法の魚が3つの願いをかなえてくれるというものです。しかし台本はありません。「何曲か音楽をかけるから、好きなように踊ったり動いたりして!」。これが初日の先生の指示で、この時の学生の動きからこの演劇のシナリオとタイトルが生まれました。友人達と“**Spanglish** (英語とスペイン語の混ざった言語のこと)”を使ってショートムービーと演劇の内容について話しているだけで、1コマ3時間の授業が、あっという間に過ぎて行きました。私は最初から最後までずっと想像力のなさに悩みました。日本で、映画だけではなく演劇をたくさん見て、想像力や思考を柔らかく鍛えて来ればよかったと後悔しました。しかし、日本では考えられないような発想から話を作り、想像して体を動かして、ゼロの状態から何かを作り上げることがだんだん楽しくなり、この授業はとても充実したものになりました。

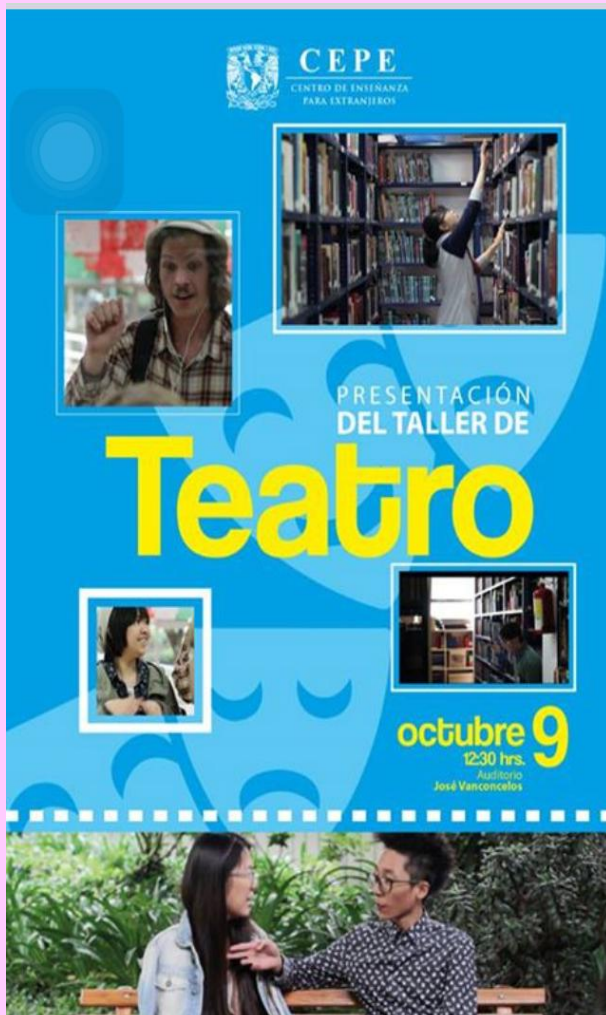
小旅行 Taxco(タスコ)

試験を終え、私は **Guererro** (ゲレロ) 州にある **Taxco** (タスコ) という銀細工が有名な街に、日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加している友人と1泊2日で旅行をしました。**Taxco** (タスコ) からバスで40分ほどのところにある **Grutas de Cacahuamilpa** (グルータス・デ・カカワミルパ) という、巨大な鍾乳洞を訪ねました。暗闇の中、ガイドの方によるライトアップとひねりのきいた楽しい解説を聞きながら往復4kmをゆっくりと見学しました。初めて見た鍾乳洞は、本当に自然によって作られたのかと思うほど威厳があり、堂々としていて恐怖さえ感じました。その後 **Taxco** (タスコ) の街にもどって、歩き回って感じたことは、2つあります。まず、坂が多くそれぞれがとても急斜面であることです。たまにバスやタクシーなどが、ずるっと坂を落ちたりしていて驚きました。しかし、この急斜面によって作り出される夕日や朝日と建物の影によるコントラストは、映画から飛び出してきたかのように素晴らしいもので、写真よりも動画に収めたいと

感じました。もう1つは、人の雰囲気の穏やかさでした。**Taxco (タスコ)** は、ホテルのスタッフや、レストランのウェイター、タクシーのドライバーなど関わった人すべてがにこやかで優しく、本当に異空間に飛び込んだような気分を味わい、リフレッシュすることができました。

毎日外に出て人と会うこと、スペイン語で会話することに少しずつ向き合うことが出来るようになってきました。また、アジア人が珍しいとジロジロ見られることにもだいぶ慣れてきました。新しい環境で過ごすことは大変ですが、まだ時間はたっぷりあるので、この体験を自分のものにし目標を達成できるように頑張りたいです。

演劇の授業の発表会のためCEPEのいくつかある掲示板に張り出されていたポスター。記載されている写真はすべてショートムービーのもの。



演劇終了後の写真。(プライバシー保護のためにすべてピントが合っていないものを選びました)



Grutas de Cacahuamilpa (グルータス・デ・カカワミルパ) の大鍾乳洞



Taxco (タスコ)にて。朝日の差し込むZocalo (ソカロ中央広場)

